

# 15・16世紀の 「夢解き本 (Traumbuch)」について

藤井明彦

## 1. 「夢解き本 (Traumbuch)」の歴史と種類

夢の解釈をする著作は古くから存在する。まとまった形で伝わっている最も古い西洋の夢占いはローマ帝政期のギリシャのアルテミドロスが記した『夢判断の書 (Oneirokritika)』と言われているが、9世紀になると「～することは～を意味する」といった短文形式で夢内容とその解釈を述べるラテン語の書物<sup>1</sup>が登場する。これは、ネブカドネツァル王の見た夢を解き明かした旧約聖書の預言者ダニエルの名を借りて「ダニエルの夢解き (Somniale Danielis)」と呼ばれることが多いものだが、その後英語、フランス語、ドイツ語などに翻訳されて中世後期から近世初期にかけて広く読まれることになった。夢を解釈する本一般を意味する Traumbuch という表現も15世紀から使われ始める。<sup>2</sup>

「夢解き本」は主に以下の4つのタイプに分かれる。<sup>3</sup>

### ① 夢の内容をアルファベット順に挙げてその意味を示すもの (「ダニエルの夢解き」)

上記の「～する (のを見る) ことは～を意味する」という短文がキーワードのアルファベット順に並ぶ形式。「意味する」はドイツ語では *bedeutet*、ラテン語では *significat*。主語はふつう不定詞句 (「龍を見る *Drachen sehen*」、 「人肉を食べる *Menschenfleisch essen*」など) で、目的語には名詞の4格 (対格) が置かれる。<sup>4</sup> 1550年までに作成・出版されたラテン語およびヨーロッパ諸国語の写本・印刷本の数は260点近くと多くを数える。

### ② 夢の内容を系統的に挙げて解釈を述べるもの

人間の誕生に関しては妊娠、出産、育児など、身体に関しては頭、髪、爪、耳から膝、脚、背中といった順に、また食品に関しては野菜、穀類、パン、肉、菓子類…と系統的に挙げながら、それにまつわる夢に解釈を与えて行くもの。東方ギリシャ世界で流布していたが西方ラテン世界に広まるのは遅れ、代表的な著作であるアルテミドロスの『夢判断の書』もラテン語版が出版されたのは1539年であった。しかしすぐにドイツ語版 (1540年)、イタリア語版 (1542年)、フランス語版 (1546年) が刊行され、1550年までに10点近くのラテン語およびヨーロッパ諸国語の刊本を数えることになる。

1) 4世紀頃に成立した複数のギリシャ語文書に基づくものと推測されているが、具体的な関連は明らかになっていない。→ Speckenbach (1990), S. 128f.

2) → Speckenbach (2007), S. 680f.

3) Chardonens (2018) を参考にした。写本・印刷本の数の集計も同論文による。

4) 動詞の不定形や副文などのこともある。

## ③ 月齢によるもの

新月からの満ち欠けのサイクルの30夜のそれぞれに関して、その夜の夢が効力を持つか持たないか等を述べるもの。1550年までに作成・出版された約280ものラテン語およびヨーロッパ諸国語の写本・印刷本が確認されている（次章で具体例を紹介する）。

## ④ 字母占い（「ヨセフの夢解き」）

夢の内容やその夜の月齢とは独立した占いで、夢を見たあとで書物（通常は「詩篇」の書<sup>5)</sup>の任意の頁を開き、左側の頁の一番上の行の最初の文字によって占う（これも次章で具体例を紹介する）。ファラオの夢の夢解きをしたヨセフに因んで「ヨセフの夢解き」と呼ばれることがある。約95点のラテン語およびヨーロッパ諸国語の写本・印刷本が1550年までに作成・出版されたという。<sup>6)</sup>

今回は夢解き本の代表格である①のタイプ、「ダニエルの夢解き」と通称されているものを取り上げる。既にG. Hoffmeisterが1969年の論文で指摘しているように、同じ夢内容でも本によって解釈が異なることがある。Hoffmeisterは自らが校訂したラテン語写本を別のラテン語写本、ドイツ語写本、ドイツ語刊本（それぞれ1点）と比較して、脚注で違いを指摘するという形を取っているが、ここでは当時のドイツ語圏のひとびとにとって身近であったドイツ語の印刷本を出発点として、どのような夢がどのように解釈されていたのかを見てみたい。「ダニエルの夢解き」を含むドイツ語印刷本はこれまでに20点前後が確認されているが、<sup>7)</sup>今回はデジタル化等によって閲覧可能な以下の14点を対象とした。

表1：「ダニエルの夢解き」を含むドイツ語印刷本

略号	出版年	出版地	出版工房	項目数	目録番号 <sup>8)</sup>
D1	[14]88	[Nürnberg]	[Hans Mair]	359	GW 7915
D2	[1495/1500]	[Augsburg]	[J. Schönsperger d. Ä.]	381	GW 7916
D3	1500	Straßburg	[Matthis Hupfuff]	381	GW 7917
D4	[um 1500]	[Memmingen]	[Albrecht Kunne]	382	GW 791710N
D5	1508	Augsburg	Hanns Sittich	457	— <sup>9)</sup>
D6	1511	Augsburg	J. Schönsperger d. J.	470	VD16: ZV926
D7	1511	Straßburg	Matthis Hupfuff	496	VD16: ZV927

5) 「詩篇」は典礼の道具として独立した冊子体を成すことがあった。

6) この他に四体液（血液、黄胆汁、黒胆汁、粘液）のバランスの乱れが夢に現れると考えて、その治療法を挙げるというタイプのももあった。例えば夢に赤い色の物や甘い食べ物、祝祭などの楽しいことが多く出てくる場合は「血液」が過剰なので瀉血をすべし等。→ Speckenbach (1990), S. 183ff.

7) 夢占いに関するドイツ語の写本と印刷本を初めて本格的に調査・整理したSpeckenbach (1990)は12点の印刷本を挙げている。定期的に更新されているChardonnensのリスト (Handlist of Dream Divination and Lunar Prognostication in Western Manuscripts and Early Printed Books) はそれに加えて10点近くを挙げているが、所在が確認できないものも含まれている (2023年6月1日更新版)。

D8	[1514]	[Augsburg]	[Johann Otmar]	469	VD16: ZV19888
D9	1521	Augsburg	J. Schönsperger d. J.	469	VD16: ZV928
D10	[um 1535]	Straßburg	Jakob Cammerlander	467	VD16: N1335
D11	1535	[Augsburg]	[Heinrich Steiner]	692	VD16: ZV22619
D12	1537	[Augsburg]	[Heinrich Steiner]	694	VD16: ZV930
D13	1545	Straßburg	Jakob Cammerlander	467	VD16: ZV21831
D14	1594	Hamburg	Heinrich Binder	956	VD16: D2795

出版年は1488年から1594年に渡っているが、一定の間隔で刊行されていたのは16世紀前半までだったことが分かる。出版地はドイツ語圏の南部地域が中心で低地ドイツ語版(1594年)は珍しい。

上記の印刷本は「ダニエルの夢解き」以外にも夢占いに関する内容のものを含んでいることがあるので、まずそれを紹介する。その後で具体的な夢の項目を選び、上記の14冊の印刷本の解釈を比較する。そして解釈に大きな差のある項目を抽出して、その解釈の依って来たところをドイツ語の写本、ラテン語の印刷本、ラテン語の写本に遡って探ってみたい。

## 2. 「夢解き本」の構成

上記の14点の印刷本に含まれる、①以外の夢占い関連文書には次のようなものがある。

### 1) 字母占い

上記の④に該当するもので、D1、D4、D11、D12に見られる。「片手で十字架を持ちながら詩篇の書を開け。開かれた左側の頁の一番上の行の最初の文字がこれから起こることを告げるだろう」といった前置きがある。

D1とD4はA/B/CD/EF/G/H/J/K/L/M/N/O/P/Q/R/S/T/V/X/Y/Zの21項目(CとD, EとFは同一項目)、D11とD12はA/B/C/D/E/F/G/H/J/K/L/M/N/O/P/Q/R/S/T/V/X/Yの22項目。最初の数文字に関するD1とD11の解釈を挙げておく。<sup>10</sup>

字母A: 権力あるいは愛 *macht oder lieb* (D1)

生と暴力 *leben vnd gewalt* (D11)

字母B: 戦いにおける制圧 *vberwindung im krieg* (D1)

強さと暴力 *Sterck vnd gewalt* (D11)

字母CあるいはD: 悲しみと死 *traurigkeit vnd den tod* (D1)

字母C: 汝に帰属する者一人の死 *Den tod einen der dir zugehört* (D11)

8) GW= Gesamtkatalog der Wiegendrucke. VD16= Verzeichnis der im deutschen Sprachbereich erschienenen Drucke des 16. Jahrhunderts.

9) Werlin (1964)に収録されている転写を参照した。この刊本はVD16には登録されていない。

10) 解釈は動詞 *bedeuten* の4格目的語として記されている。

字母D： 最後まで苦難と厄介と危険 Trübsal / widerwertigkeit vnd  
perickel biß an das end (D11)

## 2) 月齢

D11、D12に見られるもので、上記の③に該当する。見た夢が確かな夢として効力を持つのは第1・3・4・5・6・7・8・9・12・14・16・17・19・21・22・23・26・28・29の月齢の時で、効力を持たず何もたらさないのが第2・10・20・27の月齢の時とされている。夢で見たことが「4日のうちに起こる、5日のうちに効力を発揮する」といった記述もある。

## 3) 夢の三段階について

これはD6、D8、D9、D10、D13に見られる説明で、夢には三つの段階があるが、最後の段階の夢のみを解釈の対象にすべきだという。以下、概要を記す。

一つ目は飲食して横になった時で、胃の飽和が大きいため蒸気が頭に溜まり理性を曇らせ理性は不完全になる。その時に眼の前で起こることに解釈は不要だ。次に胃の飽和がある程度収まると、身体の血液はまた力を得る。これは然るべき時刻に就寝すると真夜中前に起こる睡眠だが、その時に見る夢についても気にとめるべきではない。さて、血液が自然にかなった状態で身体のなかで落ち着くと人間の本性は完全になる。人間の精神は神によって高貴になり、肉体に起こるはずのを感じるようになる。そして精神はそれを心臓に比喻で教え、人間は目覚めるとその比喻に思いを致すことが出来る。この夢にこそ意を向けて従うべきである。

## 4) 物語や聖書に記された夢

D10とD13は多くの頁を割いて(本全体の3/4程度)アレクサンダー大王やローマ皇帝アウグストゥスといった歴史上の人物たちの見た夢が正夢だったこと、また旧約聖書に登場するヤコブの梯子(階段)の夢(「創世記」第28章)、ヨセフによるファラオの夢の解き明かし(「創世記」第40～41章)、そしてネブカドネツアル王の宮廷における預言者ダニエルの様子を記している。特にダニエルについてはネブカドネツアル王の見た夢を言い当ててその解釈を示すこと(「ダニエル書」第2章)、ネブカドネツアル王が見て恐ろしい思いをした夢を解き明かすこと(「ダニエル書」第4章)、また四頭の大きな獣の幻や雄羊と雄山羊の幻を見たこと(「ダニエル書」第7～8章)などが詳しく述べられている。これに加えてジョヴァンニ・ボッカッチョの『デカメロン』の第四日第六話(アンドレウオーラの恋人ガブリオットが急死する話)と第九日第七話(タラーノ・ディ・イモレーゼの妻が狼に襲われる話)も紹介されているが、これも見た夢がそのとおり事実になるという内容の物語である。また執政官スキピオーが夢のなかで義理の祖父の霊と語り合うという設定のキケローの「スキピオーの夢」(『国家について』第6巻、9～29節)もほぼ全文の翻訳が収録されている。

## 5) ミヒヤエル・スコトゥスの『観相学の書』からの引用

D11、D12はスコットランド生まれの占星術家ミヒヤエル・スコトゥス(マイケル・スコット、Michael Scot[us]、1234年頃没)の『観相学の書 Liber phisionomie』から2箇所

を引用している。<sup>11</sup> 一つは「鳥の性質について」と題されているもので夢との関連性はないが、<sup>12</sup> もう一つは夢を解釈する際の心構えといった内容で、夢を見る者の年齢や性別やその時の月齢によって解釈が異なってくること、特に食事の消化の程度が問題で、消化が完了した時にはじめて将来を明かす夢が訪れること、また見た夢の意味を知りたければすぐに起きて記憶に留めること、再び横になる場合は身体の向きを同じ側にしてはいけないことなどが述べられている。

#### 6) アルテミドロス『夢判断の書』からの引用

D10 (1535年頃) とD13 (1545年) は共にシュトラースブルクのJakob Cammerlander工房から刊行されたものだが、後者の巻末には1折丁分の追加 (k4<sup>v</sup>-l3<sup>v</sup>) があり「古の異教徒たちの見た幾つかの驚異の夢の解釈」と題されている。内容はアルテミドロス『夢判断の書』の第2巻、35～36節の要約で、ユピテル、ユノ、アポロ、ミネルヴァといった神々が現れる夢と、太陽、月、星々、虹、雲、霧、風、嵐に関する夢の解釈が記されている。1540年に刊行された『夢判断の書』のドイツ語版の影響を受けているものと思われる。

まとめると次のようになる。

表2：ドイツ語刊本に含まれる「ダニエルの夢解き」以外の夢占い関連の文書

	字母占い	月齢	夢の三段階	物語・聖書	スコトゥス	アルテミドロス
D1						
D2						
D3						
D4						
D5						
D6						
D7						
D8						
D9						
D10						
D11						
D12						
D13						
D14						

表からは「夢の三段階」「物語や聖書に記された夢」を含むD10、D13と「字母占い」「月

11) → Speckenbach (1990), S. 149f.

12) 主な内容は、片付けるべき用務があって家から外に出た時に、出会う人ないし鳥の動きによってその用務の成否を占う「鳥占い」。冒頭に「キリスト教会が禁じているものだが、ここに記す」とある。

齡」「スコトゥス」を取録しているD11、D12が対照的な構造を示しているのが分かる。

### 3. 解釈の実例

- どのドイツ語印刷本も項目数は300以上あり、すべてを比較検討することは困難なので、
- 1) まず筆者が興味を惹かれた12項目（「龍を見る」「卵を食べる」「象を見る」「自分が斬首されるのを見る」「酔を飲む」「神を見る、あるいは／そして神と話す」「眠りのなかで笑う」「人肉を食べる」「霧を見る」「雪を見る」「死ぬ、あるいはこの世から去る」「死者と話す」）を選び、<sup>13</sup>
  - 2) そして夢占いで取り上げられる頻度が高いテーマから「月」「馬」「淫行」を選んだ。

#### 3. 1. 筆者による選択項目








































上記の項目に関するD1～D14の解釈を比較する。同じ解釈を示している印刷本をそれぞれ「横縞」「点線」「斜線縞」で示す。<sup>14</sup>




表3：筆者による選択項目に関する解釈の分布

	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10	D11	D12	D13	D14
龍を見る														
卵を食べる														
象を見る														
自分が斬首されるのを見る														
酔を飲む														
神を見る、あるいは神と話す					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神を見る、そして神と話す	—	—	—	—							—	—		
眠りのなかで笑う														
人肉を食べる	—													—
霧を見る														
雪を見る														
死ぬ、あるいはこの世から去る							—				—	—		—
死者と話す					—	—	—	—	—	—			—	




表から明らかなのは、D11、D12の解釈が殆ど常に他の印刷本の解釈と異なっていることである。また、D11、D12以外の刊本の中ではD2、D3、D4が時折独自の振る舞いを示すことがある。D10、D13は「物語や聖書に記された夢」に多くの分量を割いて、夢を解釈することの正当性を強調していたが、具体的な夢解釈に関してはそれまでのものをほぼ踏襲しているのが分かる。

13) 順番はキーワードのアルファベット順 (Drache, Ei, Elefant ...)。



14) 「—」はその項目が取り上げられていない場合、空欄は項目が取り上げられているが解釈が独自な場合。

これから具体的な夢解釈の文言を見て行くが、まずの解釈 (D11、D12以外の大  
半の印刷本の解釈で「主流」の解釈と考えられる)、次にの解釈 (D2、D3、D4が  
示すことが多い)、最後にの解釈 (D11、D12に見られる解釈) を記す。解釈の文  
言は、たとえば「Dracken sehen bedeuht ehr oder gewinn」(龍を見ることは栄誉あるいは  
利益を意味する) のように動詞bedeutenの目的語として示されるので、そのままの4格  
の形で表記する。語の綴りは同じ印刷本のなかでも一定していないが (ehr / eer, gewinn  
/ gewyn等)、比較的多く使われている綴りで示した。



#### 龍を見る Dracken sehen

-  圧制? verachtung
-  追跡者 durchächter
-  栄誉あるいは利益 ehr oder gewinn



#### 卵を食べる Ayer essen

-  死者の持ち物を奪う ein todten berauben
-  不安 ängstigung




#### 象を見る Elephanten sehen

-  告発 beclagung
-  利益 gewinn



#### 自分が斬首されるのを見る Enthaubten sich zû sehen

-  利益 gewinn
-  敵を制圧する sein feind überwinden, erobern den feindt



#### 酔を飲む Essich trincken

-  よく稼ぐ? gût gewinnen
-  悲しみ betrübnus
-  争いと危害 streit vnd beleydigung



#### 神を見る、あるいは／そして神と話す Got sehen oder / vnd mit im reden<sup>15</sup>

-  隠された大きな罪 groß vnerkant sünd
-  名誉 eer

#### 眠りのなかで笑う Lachen im schlaff

-  利益あるいは憤怒 gewin oder zorn
-  悲しみ traurigkait

#### 人肉を食べる Menschen fleysch essen

-  巡礼 kirchferten, walfertigen
-  神からの良きもの güttes von got、巡礼あるいは放浪 bilgerschafft oder wandern<sup>16</sup>

15) 下記4. 2. の表12参照。

16) 「神からの良きもの」とする項目と「巡礼あるいは放浪」とする項目がある。

霧を見る Nebel sehen

☰ 良い (こと) güt(tes)

☷ 悪意 böshait

雪を見る Schnee sehen

☰ 良い知らせ gütte botschaft

☷ 大きな楽しみ grosse fröligkait

死ぬ、あるいはこの世から去る Sterben oder von der welt schaiden

☰ 長き滞在 (この世に永らえる) lange wonung

死者と話す Mit einem todtten reden

☰ 良きこと güttes

☷ 何かを死者から受け取ること etwas von jm züentpfahen

「龍を見る」「酔を飲む」「神を見る、あるいは／そして神と話す」「眠りのなかで笑う」「霧を見る」の場合のように解釈の傾向が大きく異なるものについては次章で詳しく検討する。

### 3. 2. 「月」

「月」をテーマにした夢とその解釈を紹介する。取り上げている印刷本の数が多い項目順に表示するが (最大で14点)、取り上げているのが5点未満の場合は採録していない (以下同様)。

表4: 「月」に関する夢の解釈分布<sup>17</sup>

【月】	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10	D11	D12	D13	D14
月が天から落ちる											☷	☷		
輝いて (澄んで) いる月を見る		☷	☷	☷							☷	☷		
赤い月を見る		☷	☷	☷							☷	☷		
深紅の月を見る											—	—		
月を見る											—	—		
二つ (以上) の月を見る	—	—	☷	☷							☷	☷		
血の色の月を見る	—	—	☷	☷							—	—		—
月が空で新月になった	—	—	—	—							—	—		
太陽を月の側に見る	—	—	—	—	—						—	—		—

17) 「月が蝕になる Mon vinsten werden」は10点のドイツ語刊本に言及がある。ドイツ語写本やラテン語印刷本では君主のような指導者の退位や死去と関連付けられているが、ドイツ語刊本の解釈 (den fürsten flehen 「君主に嘆願する?」、setzt nichts daruon 「それについては何も定めない?」) の意味が不明のため今回は取り上げていない。



月が天から落ちる Mon von hymel fallen

☰☰☰ 損失 schaden

☰☰☰☰☰ 苦役 arbsamkayt

輝いて (澄んで) いる月を見る Mon scheinbar / clar sehen

☰☰☰ 増加 zûnehmung

☰☰☰☰☰ 増加あるいは成長 zûnemen oder wachsen

☰☰☰☰☰ 良い gût

赤い月を見る Mon rot sehen

☰☰☰ 強風? windig<sup>18</sup>

☰☰☰☰☰ 負傷 wundt

☰☰☰☰☰ 損失あるいは危険 schaden oder ferligkait

深紅の月を見る Mon purpur sehen

☰☰☰ 利益 gewin

月を見る Mon sehen

☰☰☰ 利益 gewin<sup>19</sup>

二つ (以上) の月を見る Mon zwen oder mer sehen

☰☰☰ 暴力の前兆 gewaltig botschafft

☰☰☰☰☰ 暴力 gewalt

☰☰☰☰☰ 暴力と嫉み gewalt vnd neyd

血の色の月を見る Mon blûtig sehen

☰☰☰ 損失 schaden

☰☰☰☰☰ 破滅的な損失 verderblichen schaden

月が空で新月になった Mon new am hymel sein worden

☰☰☰ ある支配への転換? verkern zû ainer herrschaft

太陽を月の側に見る Sonn bey dem mon sehen

☰☰☰ 君主の死 fürsten tod

### 3. 3. 「馬」

「馬」をテーマにした夢とその解釈を紹介する。

表5: 「馬」に関する夢の解釈分布

【馬】	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10	D11	D12	D13	D14
馬を見る											☰☰☰☰☰	☰☰☰☰☰		
死んだ馬を見る														

18) 誤記の可能性もあるがD14の解釈は「Vnwedder / kyff」で前者は「荒天」の意 (後者のkyffはおそらく「争い」)。

19) D14は「利益」の他に「病人には死を Krancken den Dodt」意味するとしている。

白い馬を見る																		
黒い馬を見る		☒	☒	☒									☒	☒				
(荒い／大きい)馬を飼い馴らす		☒	☒	☒									☒	☒				
速い馬を見る													☒	☒				
去勢された馬を見る		☒	☒										☒	☒				☒
背の高い馬に乗る		☒	☒	☒									☒	☒				
栗毛の馬を見る		☒	☒	☒									☒	☒				

馬を見る Roß / Pferd sehen<sup>20</sup>

☒ 病氣 kranck (hait)

☒ 心の不安 ängstigung des gemüts<sup>21</sup>

死んだ馬を見る Roß das tod ist sehen / Sehen ein tod pferd

☒ 利益 gewin

白い馬を見る Roß das weiß ist sehen / Ein weiß pferd sehen

☒ 喜び freüid

☒ 利益と楽しみ gewin vnd fröligkait

黒い馬を見る Roß das schwartz ist sehen / Sehen ein schwartz pferd

☒ 不吉 vngütigkait

☒ 吝嗇? 叛逆? vnmiltigkeit

☒ 損失 schaden

(荒い／大きい)馬を飼い馴らす Ein roß zam machen / Roß das wild ist zemen / Zemen ein groß pferd

☒ 敵の制圧 überwindung der feind

☒ 敵を制圧する den feind überwinden

☒ 不安 ängstigung<sup>22</sup>

速い馬を見る Roß das schnell ist sehen / Ein schnell roß sehen

☒ 労苦 arbeit

去勢された馬を見る Roß das verschnitten ist sehen

☒ 密かな損失 heimlich schaden

背の高い馬に乗る Roß die hoch seind aufsteigen

☒ 楽しみ fröligkait

栗毛の馬を見る Roß das braun ist sehen

☒ 中傷 lesterung

20) 「馬を見ること」が病氣や心の不安を意味するというのがドイツ語刊本に見られる表現だが、ラテン語刊本では Equum se videre で「自分が馬になっているのを見ること」。

21) 「馬を見る、あるいは乗る」の解釈。

22) 「大きい馬を飼い馴らす」の解釈。

### 3. 4. 「淫行」

「淫行」をテーマにした夢とその解釈を示す。

表6:「淫行」に関する夢の解釈分布

【淫行】	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	D8	D9	D10	D11	D12	D13	D14
娼婦との淫行														
母親との淫行														
姉妹との淫行														
生娘との淫行														
娼婦と寝る	—	—	—	—							—	—		—

娼婦との淫行 Vnkeüsch mit einer gemeinen / Bey einer gemein diernen schlaffen / Schlaffen bey einer gemeinen frawen

不浄な悪徳 vnkeüschelaste

悪徳 laster

安泰あるいは利益 sicherheit oder gwin

母親との淫行 Vnkeüsch mit seiner müter / Bey seiner müter schlaffen / Schlaffen sehen bey seiner mütter

安泰 sicherhait

損失 schaden、安泰 sicherhey<sup>23</sup>

姉妹との淫行 Vnkeüsch mit seiner schwester / Schlaffen bey seiner schwester

損失 schaden

生娘との淫行 Vnkeüsch mit einer junckfrawen / Schlaffen bey einer junckfrawen

心の不安 angst der seel

悲しみ trübseligkait

娼婦と寝る Hüren beschlaffen

利益と小銭 gwin vnd pfenning

「娼婦との淫行」に関しては次章で検討する。

### 4. 対照的な解釈の典拠を探る

14点の夢解き印刷本の解釈が一致しているのは「死んだ馬を見ることは利益を意味する」と「姉妹との淫行は損失を意味する」のみで、その他の場合には多かれ少なかれ文言に差が生じている。ここではその中でも対照的な解釈が示されている「龍を見る」「酢を飲む」「神を見る、あるいは／そして神と話す」「眠りのなかで笑う」「霧を見る」「娼婦との淫行」という6項目を取り上げて、その解釈の依って来たところを探ってみたい。参

23)「損失」とする項目と「安泰」とする項目がある。

照したのは14世紀末から15世紀末に書かれた8点のドイツ語写本<sup>24</sup>（表では「独写本」）、1470年代から1500年頃までに出版された18点のラテン語印刷本<sup>25</sup>（表では「羅刊本」）である。最も古い媒体であるラテン語の写本（表では「羅写本」）に関しては以下の校訂本を利用した：

Fischer (1982)は23種のラテン語版、英語版、フランス語版、ドイツ語版の解釈を夢内容のキーワード別にまとめたもの。以下の検討では11世紀の(2) De somniorum diuersitate ... Danielis prophete (Cotton Ms. Tiberius A. III, 11<sup>th</sup> c.)と14世紀の(11) Interpretaciones somniorum (unique copy, 14<sup>th</sup> c.)に言及することになる。

Grub (1984)は9世紀のあるラテン語写本を校訂し註を付したのもの。

Martin (1981)は30点以上のラテン語写本を比較して、11世紀のある写本を基礎にしたaヴァージョン(275項目)と10世紀のある写本を基礎にしたbヴァージョン(162項目)の校訂テキストを提供している。付録として716という非常に多くの項目を擁する最長版(The Fullest Version)を採録している。

#### 4. 1. 双方に典拠のあるもの

「眠りのなかで笑う」と「霧をみる」に関してはD11、D12とそれ以外の刊本が対照的な解釈をしているが、その双方の解釈ともドイツ語写本、ラテン語刊本、ラテン語写本に前例がある。これは解釈が伝統的に二分している夢だと考えられる。

表7：「眠りのなかで笑う」の解釈

眠りのなかで笑う Lachen im schlaff			
独刊本	利益あるいは憤怒 gewin oder zorn		悲しみ traurigkeit 
独写本	利益あるいは憤怒 gewin ader zornn*		悲しみ trurickayt**
羅刊本	利益あるいは憤怒 lucrum vel iram <sup>26</sup>		—
羅写本	—		悲しみ tristiciam***



\* Speckenbach (1990): 4) \*\* Ebd.: 5) \*\*\* Fischer (1982), p. 99, (11)

24) Speckenbach (1990)の挙げている写本のうち以下のもの：1) Liverpool, Liverpool Museum, MS. M 12004, f. 145<sup>v</sup>. 2) Nürnberg, Germanisches Nationalmuseum, Hs 6284, f. 5<sup>rv</sup>. 3) Heidelberg, UB, cpg 575, f. 36<sup>r</sup>-38<sup>r</sup>. 4) Nürnberg, Germanisches Nationalmuseum, Hs 6285, f. 1<sup>r</sup>-6<sup>v</sup>. 5) Privatbesitz, Petroneller, Circa instans‘Hs., f. 145<sup>v</sup>-152<sup>f</sup>. 10) a) Heidelberg, UB, cpg 832, f. 110<sup>vb</sup>-116<sup>ra</sup>. 10) b) Coburg, Landesbibl., Ms. 5, f. 112<sup>ra</sup>-116<sup>ra</sup>. 11) Berlin, SB Preußischer Kulturbesitz, mgo 101, f. 87<sup>r</sup>-97<sup>v</sup>.

25) GW 7906, 7908, 7909, 7911, 7912, 7913, 7914, 7920, 7921, 792250N, 7925, 7928, 7930, 7931, 7934, 793410N, 7935, 7937.

26) 解釈は動詞 significatの目的語として示されているので、そのままの対格の形で引用する。

表8:「霧を見る」の解釈

霧を見る Nebel sehen			
独刊本	良い (こと) gūt(tes) 	悪意 boßhait 	
独写本	良いこと Guttēs*	悪いこと vbele ding**	
羅刊本	良いこと bonum 良い知らせ nuncium bonum	—	
羅写本	—	良いことは何もない nullum bonum*** 悪意 malignitatem****	

\* Speckenbach (1990): 4) \*\* Ebd.: 11) \*\*\* Grub (1984), Nr. 228

\*\*\*\* Martin (1981), p. 202, the Fullest Version, Nr. 519

#### 4. 2. 「主流」の解釈に典拠が見当たらないもの





で表示した解釈は全14点のうちの多くの印刷本が示しているもので、ドイツ語刊本における「主流」の解釈と考えられるが、その他の少数派の解釈が既存の夢解き本に類例を持つ一方で、この多数派の解釈に関しては先行例が見つからないというケースが意外に多い。




表9:「龍を見る」の解釈

龍を見る Dracken sehen			
独刊本	圧政?  verachtung	追跡者  durchächter	榮譽あるいは利益  ehr oder gewinn
独写本	—	—	—
羅刊本	—	追跡者 persecutores	利益 lucrum
羅写本	—	—	利益 lucrum*

\* Grub (1984), Nr. 3

「追跡者」はラテン語刊本に、「(榮譽あるいは) 利益」はラテン語刊本や写本に例があるが、verachtungに対応するものが見当たらない。Verachtungは現在では一般的に「軽蔑」の意味で使われる単語だが、中世では殆ど使用例がない(動詞verachtenも同様)。その一方で中世高地ドイツ語にはver-ächten, ver-æhtenという動詞、ver-æhtungeという名詞があり、「追放(する)、根絶(する)」を意味する。D1は独自にverächterという語を解釈として挙げているが、「迫害する者、圧政者」の意だとすれば、空に君臨する龍のイメージにも通じる。しかしD5で使われ始めた語形verachtungがその後の多くの刊本に伝承されて行き、16世紀末に刊行された低地ドイツ語版のD14もVorächtingと記している。

表10：「酔を飲む」の解釈




酔を飲む Essich trincken			
独刊本	よく稼ぐ?  güt gewinnen	悲しみ  betrübnus	争いと危害  streit vnd beleydigung
独写本	—	多くの悲しい日々 vil trawrig tag*	損失 schaden**
羅刊本	—	煩わしさ molestiam 虚弱 infirmitatem	—
羅写本	—	虚弱 infirmitatem ***	—

\* Speckenbach (1990): 11) \*\* Ebd.: 4)

\*\*\* Martin (1981), p. 174, the Fullest Version, Nr. 26; Fischer (1982), p. 151, (2)

今回調べた限りでは、「酔を飲む」に関しては否定的な意味合いの解釈しか見当たらなかった。アルテミドロスの『夢判断の書』も「酔を飲む夢は、口のなか引きつるから、家内の者とのいさかいを表わす」(第1巻、66節)<sup>27</sup>としている。

表11：「娼婦との淫行」の解釈

娼婦との淫行 Vnkeüsch mit einer gemeinen			
独刊本	不浄な悪徳  vnkeüschische laster	悪徳  laster	安泰あるいは利益  sicherheit oder gewin
独写本	—	悪徳 laster*	利益 gewyn**
羅刊本	—	—	安泰 securitatem 大きな利益 magnum lucrum
羅写本	—	—	—

\* Speckenbach (1990): 4) 134 (Huren Beschlafen) \*\* Ebd.: 10) a), b)

ラテン語刊本は一貫して「安泰」「大きな利益」という解釈を与えている。「娼婦」に関しては„eine gemeine“という表現の他にHürenも使われるが、ここで「不浄な悪徳」と答えているドイツ語刊本も「Hüren beschlafen (娼婦と寝る)」夢は「利益と小銭 gewin vnd pfenning」を意味するとしている(上掲表6参照)。「悪徳 laster」という解釈はドイツ語写本に1例あるが「不浄な悪徳」は先例がない。また「悪徳」という解釈は夢の解釈としては直接的に過ぎる印象がある。

27) アルテミドロス(城江良和訳): 夢判断の書、83頁。

表12: 「神を見る、あるいは／そして神と話す」の解釈

	神を見る、そして神と話す Got sehen vnd mit im reden	神を見る、あるいは神と話す Got sehen oder mit im reden
独刊本	隠された大きな罪 groß vnerkant sünd 	名誉 eer 
独写本	直ちに罪から抜け出す kurtzlich auss sünden komen*	名誉 ere**
羅刊本	—	名誉 honorem
羅写本	—	—

\* Speckenbach (1990): 7,<sup>28</sup> 10) a), b), 12)<sup>29</sup> \*\* Ebd.: 4)

「神を見る、あるいは神と話すことは名誉を意味する」というD1～D4の解釈はドイツ語写本にもラテン語刊本にも先例がある。その一方で「神を見る、そして神と話すことは隠された大きな罪を意味する」というD5～D10、D13の解釈に関しては事情が混み入ってくる。すなわち「神を見る、そして神と話す」という項目は5点のドイツ語写本にもあるが、どれも「直ちに罪から抜け出す」<sup>30</sup>、「不安から逃れる慰めが与えられる」<sup>31</sup> という肯定的な意味に捉えている。そして5点のうちの3点の写本は、これを「隠された大きな罪」と解釈するのは「異教徒たち die heyden」や「異教の師や書dye hay[d]nischen mayster vnd pucher」の解釈だと主張している。<sup>32</sup> 神の御前にはじめて自分の大きな罪を知るとすれば、それはキリスト教徒にとって由々しき事態を意味する。<sup>33</sup>

今回取り上げた夢内容は30数例で、詳しく検討したのは6例に過ぎない。探索の範囲を広げれば、より詳しい様相が見えてくる可能性がある。

## 参考文献

Chardonnens, László Sándor (2018): Dream divination in manuscripts and early printed books: patterns of transmission. In: Aspects of knowledge: preserving and reinventing traditions of learning in the Middle Ages. Edited by Marilina Cesario and Hugh Magennis. Manchester. p. 23-52.

Ders. (2023): Handlist of Dream Divination and Lunar Prognostication in Western

28) Berlin, SB Preußischer Kulturbesitz, mgo 101, f. 172<sup>v</sup>-176<sup>r</sup>.

29) München, SB, cgm 597, f. 245<sup>ra</sup>-246<sup>ra</sup>.

30) Speckenbach (1990): 7), 10) a), b), 12). →註23.

31) Ebd.: 8) München, UB, 8<sup>o</sup> Cod. ms. 179, f. 142v-148v.

32) Ebd.: 7), 8), 12).

33) 旧約聖書「詩篇」第19篇、第13節「誰が知らずに犯した過ちに気付くでしょうか。隠れた罪から私を解き放ってください」(聖書協会共同訳)。

Manuscripts and Early Printed Books (updated 1 June 2023).

Fischer, Steven R. (1982): *The Complete Medieval Dreambook. A Multilingual, Alphabetical *Somnia Danielis* Collation.* Bern / Frankfurt a. M.

Grub, Jutta (1984): *Das lateinische Traumbuch im Codex Upsaliensis C 664 (9. Jh.). Eine frühmittelalterliche Fassung der lateinischen Somniale-Danielis-Tradition. Kritische Erstedition mit Einleitung und Kommentar. Lateinische Sprache und Literatur des Mittelalters, Bd. 19.* Bern / Frankfurt a. M.

Hoffmeister, Gerhart (1969): *Rasis' Traumlehre. Traumbücher des Spätmittelalters.* In: *Archiv für Kulturgeschichte* 51, S. 137-159.

Jurchen, Sylvia (2014): *Traumbücher.* In: *Deutsches Literatur-Lexikon. Das Mittelalter. Bd. 6: Das wissensvermittelnde Schrifttum bis zum Ausgang des 14. Jahrhunderts.* Hrsg. von Wolfgang Achnitz. Berlin / Boston. Sp. 233-246.

Martin, Lawrence T. (1981): *Somnia Danielis. An Edition of a Medieval Latin Dream Interpretation Handbook.* Frankfurt a. M. / Bern / Cirencester.

Oberhelman, Steven M. (2008): *Dreambooks in Byzantium. Six *Oneirocritica* in Translation, with Commentary and Introduction.* Hampshire / Burlington.

Pongracz, M. / Santner, I. (1963): *Das Königreich der Träume. 4000 Jahre moderne Traumdeutung.* Wien / Hamburg.

Speckenbach, Klaus (1990): *Die deutschen Traumbücher des Mittelalters.* In: Nigel F. Palmer / Klaus Speckenbach: *Träume und Kräuter. Studien zur Petroneller ‚Circa instans‘-Handschrift und zu den deutschen Traumbüchern des Mittelalters. Pictura et poesis, Bd. 4.* S. 121-210. Köln / Wien.

Ders. (1995): *Traumbücher.* In: *Die deutsche Literatur des Mittelalters: Verfasserlexikon.* Bd. 9, Sp. 1014-1028. Berlin / New York.

Ders. (2007): *Traumbuch.* In: *Reallexikon der deutschen Literaturwissenschaft, Bd. 3,* S. 680-682. Berlin.

Werlin, Josef (1964): *Das Traumbuch des Armen Nikolaus von Prag.* In: *Stifter-Jahrbuch* 8, S. 195-208.

アルテミドロス (城江良和訳) : *夢判断の書* 叢書アレクサンドリア図書館 第二卷 (国文社) 1994年.



ハルトリープ、ヨハネス (藤井明彦翻訳・注解・解説、安齋利沙注解補佐) : 禁術全書  
すべての禁じられた術と邪信と魔術の書 (国書刊行会) 2023年.

ボッカッチョ (平川祐弘訳) : デカメロン (河出書房新社) 2012年.

M・ポングラチュ&I・ザントナー (種村季弘、池田香代子、岡部仁、土合文夫訳) : 夢の  
王国 夢解釈の四千年 (河出書房新社) 1987年.

M・ポングラチュ/I・ザントナー (種村季弘、池田香代子、岡部仁、土合文夫訳) : 夢占  
い事典 (河出文庫) 1994年 [上記単行本の文庫化].